



【知識・技能】

○「知識」については、観点の趣旨（※）を「～について理解している。」と示しているため、そのまま評価規準として設定することができます。

○「技能」については、観点の趣旨「創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、～で表している。」という文言を用いて評価規準を設定します。なお、「B鑑賞」の題材については設定しません。

【思考・判断・表現】

○「A表現」については、創意工夫している状態を評価します。そのため、観点の趣旨「どのように表すかについて思いや意図をもっている。」という文言を用いて評価規準を設定します。

【主体的に学習に取り組む態度】

○観点の趣旨を「～取り組もうとしている」と示しているため、そのまま評価規準として設定することができます。

○評価規準の文頭には、その題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要な、扱う教材曲や曲種等の特徴、学習内容など、生徒に興味・関心をもたせたい事柄を記載します。

題材名

歌詞が表す情景や心情を思い浮かべ、曲想を味わいながら表現を工夫して歌おう（第2学年）

内容のまとめり

〔第2学年及び第3学年〕

「A表現」（1）歌唱 及び 〔共通事項〕（1）

1 題材の目標

- (1) 「荒城の月」、「早春賦」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で「早春賦」を歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。
- (2) 「荒城の月」、「早春賦」のリズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「早春賦」にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。
- (3) 「荒城の月」、「早春賦」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、我が国で長く歌われている歌曲に親しむ。

「題材の目標」は、一文で示してもよい。

2 題材の評価規準の設定

手順1 該当学年の「評価の観点とその趣旨（※）」を確認します。

【第2学年及び第3学年の評価の観点とその趣旨】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・ 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。 	音楽を形づくっている要素や要素同士の間連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい音楽表現としてどのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

手順2 本題材で扱う学習指導要領の内容を明確にします。

第2学年及び第3学年 A表現(1)歌唱

ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫すること。

イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。

(ア) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わり

ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。

(ア) 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能

[共通事項](1)

本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形作っている要素：「リズム」、「速度」、「旋律」、「強弱」

手順3 本題材で扱う評価規準の学習指導要領の内容に置き換えます。

「～について理解している」の「～」の部分に、事項イの(ア)(イ)(ウ)から一つ以上を適切に選択して置き換える。

【本題材の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知「荒城の月」、「早春賦」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解している。</p> <p>技創意工夫を生かした音楽表現で「早春賦」を歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。</p>	<p>思「荒城の月」、「早春賦」のリズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「早春賦」にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>態「荒城の月」、「早春賦」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p>

「音楽の構造」については、「思考・判断・表現」に位置付けた音楽を形づくっている要素との関わりを十分考慮して指導と評価を行う。

「音楽を形づくっている要素」には、「音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成など」の中から、本題材の学習において生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を適切に選択して記載する。

文頭の「～に関心をもち」の「～」には、その題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要な、扱う教材曲や曲種等の特徴、学習内容など、生徒に興味・関心をもたせたい事柄となるよう十分に吟味して設定する。

観点の趣旨「創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能」の部分、その題材の分野や学習内容等に応じた事項ウに置き換える。

3 指導と評価の計画（4時間）

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	知・技	思	態
		< >内は評価方法		
1	<p>◆「荒城の月」、「早春賦」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいなどに関心をもつ。</p> <p>○「荒城の月」、「早春賦」の歌詞の内容や曲想に関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「荒城の月」、「早春賦」のCDを聴いて印象などを自由に話し合う。 ・「荒城の月」、「早春賦」それぞれの1番について、歌詞を音読したり歌ったりして、歌詞が表す情景や心情、曲の雰囲気などをワークシートI-①に書く。 ・書いたことを基にして学級全体で発表し合い、他の生徒の意見でよいと思ったことをワークシートI-①に書き加える。 <p>○「荒城の月」、「早春賦」の音楽の特徴の相違点などに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二つの曲を歌い比べながら、それぞれの音楽について気付いた特徴をワークシートI-②に書く。（第2時以降の学習に生かす。） 			<p>「主体的に学習」に取り組む態度「の評価規準は第四時に位置付ける。」</p>
2	<p>◆「荒城の月」の音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じるとともに、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。</p> <p>○「荒城の月」の音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「荒城の月」を歌ったりCDを聴いたりして、リズム（拍子）、速度、旋律（音のつながり方やフレーズ）、強弱を知覚・感受し、捉えた音楽の特徴をワークシートII-①に書く。 <p>○「荒城の月」について知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、音楽の特徴と歌詞の内容とを関わらせて歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートII-①に書いた「音楽を形づくっている要素」と「感じ取ったこと」を線で結び、適宜、書いた内容を修正する。 ・歌詞の内容をワークシートII-②に端的に書き、音楽の特徴と歌詞の内容との関わりも意識して、「荒城の月」を歌う。（「音楽の特徴」と「歌詞の内容」を線で結ぶ。） <p>○前時の学習を想起して「早春賦」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「荒城の月」との雰囲気の違いを感じながら歌う。 ・「早春賦」の歌詞、リズム、音高などを意識しながら歌う。 		<p>「思考・判断・表現」の評価規準は第三時に位置付ける。」</p>	
3	<p>◆「荒城の月」と対比しながら、「早春賦」のリズム（拍子）、速度、旋律（音のつながり方やフレーズ）、強弱などの特徴を捉え、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解するとともに、音楽表現を創意工夫する。</p> <p>○「早春賦」の歌詞が表す情景や心情を想像して歌う。</p>			

<p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「早春賦」の歌詞を読み、歌詞が表している情景や心情について話し合い、それらを思い浮かべながら「早春賦」を歌う。 ○「荒城の月」と対比するなどして、「早春賦」のリズム（拍子）、速度、旋律（音のつながり方やフレーズ）、強弱を知覚・感受し、「早春賦」の曲想や歌詞の内容を味わい、音楽の構造との関わりを踏まえて曲にふさわしい音楽表現を追求する。 ・「早春賦」について、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて意見交換をする（グループ）。その際、ワークシートⅠ、Ⅱに書いた内容を振り返って「荒城の月」と対比したり、楽譜（旋律、歌詞、記号など）を手掛かりにしたりする。 ・知覚したことと感受したこととの関わりについて考えたことを基に、6/8 拍子の感じ方、速度、音のつなげ方やフレーズの捉え方、強弱などを変えて様々に歌い試しながら、「早春賦」にふさわしい音楽表現について考える（グループ）。 ・どのように歌うかについての思いや意図をワークシートⅢの1の楽譜に書き込み、特に表現を工夫するポイント（理由も含む）をワークシートⅢの2に書く（個人）。 ・ワークシートⅢに書いたことを発表し合い、グループや学級全体で歌い試しながら、「早春賦」にふさわしい音楽表現について共有する。 	<p>第3時での記録に残す評価場面は2回</p> <p>知</p> <p>曲想と音楽の構造等との関わりについての理解の状況を評価する。</p> <p>思</p> <p>第2時から第3時までの、音楽を形づくっている要素の知覚・感受、また知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている状況や、思いや意図をもつ過程や結果の状況を評価する。</p>
<p>4</p>	<p>◆創意工夫を生かして「早春賦」を歌う。</p> <p>○創意工夫を生かした表現をするための歌い方を追求する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時で取り組んだ音楽表現の創意工夫を想起しながら、曲にふさわしい音楽表現となるように学級全体やグループで、発声、言葉の発音、呼吸する際の身体の使い方などをいろいろと試す。 <p>○思いや意図をもって「早春賦」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのように歌うかについての思いや意図を再確認するとともに、考えが変わったりより具体的になったりしたところがある場合は、ワークシートⅢに加筆修正する。（加筆修正があった場合は、思の評価に反映する。） ・思いや意図と発声、言葉の発音、呼吸する際の身体の使い方などの技能との関係を意識しながら、グループや学級全体で歌う。 <p>○題材における学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「荒城の月」と「早春賦」を学級全体で歌い、学習全体を振り返り、歌詞の内容、曲想、音楽の構造などに触れながら、学んだことをワークシートⅣに書く。 	<p>第4時での記録に残す評価場面は2回</p> <p>創意工夫を生かして歌うために必要な技能の習得の状況を評価する。</p> <p>技</p> <p>第1時から第4時までの本題材の学習活動への取組の状況について総括的に評価する。</p> <p>態</p>

「主体的に学習に取り組む態度」については、本題材の学習内容等に関心をもてるようにしながら、各時間の学習活動に粘り強く取り組んでいるか、本題材の目標の実現に向けて自己の学習を調整しようとしながら取り組んでいるか等について継続的な把握に努め、適切な場面で総括的に評価する。

4 観点別学習状況の評価の総括

(1) 題材における観点ごとの総括例

《知識・技能》

表現領域では、指導事項において知識と技能とを分けて示しているため、それぞれの評価結果を総括して「知識・技能」の評価をすることが基本となります。題材単位では、その学習内容によって知識と技能とに軽重をつけることも考えられますが、一方に著しく偏ることがないようにすること、年間を通じて知識と技能がバランスよく育成されることなどに留意します。

鑑賞領域のみで構成した題材については、学習指導要領に「技能」に関する指導事項を示していないため、「知識」のみの評価で総括することになります。

《思考・判断・表現》

本事例では、**思**のように一つの評価規準を設定しているため、その評価が総括の評価結果となります。

《主体的に学習に取り組む態度》

本事例では、**態**のように一つの評価規準を設定しているため、その評価が総括の評価結果となります。

(2) 学期や年間を見通した観点ごとの総括例

〈領域・分野〉 題材名 (時数)	題材の概要 (主な教材)	学習指導要領の内容	評価の観点		
			知・技	思	態
〈表現・器楽〉 楽器の音色を生かして表現しよう (3時間)	曲想と音楽の構造との関わりを理解して、表現の工夫をしながら合わせて演奏する。(リコーダー合奏曲)	・「A表現」(2) ア、イ(ア)、ウ(イ) ・〔共通事項〕(本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素:「音色」、「旋律」「テクスチャ」)	C	B	B
〈鑑賞〉 管弦楽の響きや楽曲の構造を理解し、曲想を味わおう (3時間)	曲想と音楽の構造との関わりを理解して聴き、管弦楽のよさや美しさを味わう。(管弦楽曲)	・「B鑑賞」(1) ア(ア)、イ(イ) ・〔共通事項〕(本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素:「音色」、「テクスチャ」、「形式」)	A	A	B
本題材			B	B	A
〈表現・創作、鑑賞〉 箏に親しもう〜構成を生かした創作と箏曲の鑑賞 (5時間)	箏の音色の特徴及び反復、変化、対照などの構成上の特徴、音楽の特徴とその背景となる文化などとの関わりを理解して、構成を生かして音楽をつくるとともに、箏曲を味わって聴く。(箏曲)	・「A表現」(3) ア、イ(イ)、ウ ・「B鑑賞」(1) ア(ア)、イ(イ) ・〔共通事項〕(本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素:「音色」、「速度」、「旋律」、「構成」)	B	A	A
			B	A	A

この例では、観点ごとの各題材の評価結果について、「A」の数と「B」の数が同数であった場合は、学期や年間を見通した総括を「A」とするという考え方をとっています。

この他にも、題材の目標、指導内容、配当時数など、特に重視することが妥当と考えられる題材の評価結果に重み付けを行うなど、各学校において工夫していきます。

【ワークシートⅢ】

1 感じ取ったことやどのようなように歌うかについての思いや疑問

若丸 一馬 作詞 / 中田 康 作曲

「早春賦」

喜びや楽しさを感じながら、6/8の流れにのって。

2 特に表現を工夫するポイント (理由も書きましょう)

2回目の「こえーもたーでずー」のppとrit.の表現を工夫したい。
うくいの鳥さ声をきくことのできな残念な気持ちで伝えるようにしたいから。

【ワークシートⅣ】 (学習を終えて)

「荒城の月」と「早春賦」を取組む学習の全体を振り返って、歌謡の内華、曲調、リズム (拍子)、速度、旋律 (音のつながり)、フレーズ、強弱などに触れながら、学習したことについて書きましょう。

「荒城の月」と「早春賦」の2曲を歌ったことで、拍子や旋律の音のつながりによって、音楽の雰囲気が大きく変わることがわかりました。また、歌詞の内容を想像しながら、作曲者が書いた記号に気をつけながら、その曲に合った速度やフレーズ、強弱を工夫して歌うと、歌詞や音楽をつかった人の気持ちと、同じ気持ちになれて歌った感じができました。

※実物は左右それぞれがA、4冊

本事例で用いているワークシートと生徒の記入例

【ワークシートⅠ】	「荒城の月」	「早春賦」
① 歌詞が表す情景や心情、曲の雰囲気など	昔を懐かしがっている ゆったりとした悲しい感じ。 (他者の意見から) ・物音や変化を感じの中にも、とてモカ強さがある	春を待っている様子が 感じられる ・流れるように (他者の意見から) ・喜んでいるような雰囲気と、残念な気持ちの両方がある、儂しい感じ
② 気付いた特徴 【拍子、速度、旋律の音のつながりやフレーズ、強弱などに着目】	・淡々としたリズム ・速度はゆったりしている ・短調の旋律がある ・一音一音がつながるように響かいていく	・リズムが生き生きしている ・旋律が上がったり下がったりして、休符がない ・少しゆくりになったり、強弱が突然変わった、たりする
【ワークシートⅡ】	「荒城の月」	強弱:
拍子: 4/4拍子	速度: ・ゆ、くりした 速さ	やフレーズ: ・音の上がり下がりが多い ・MF ・クレンディ ・デクレシェンド が多い
音楽の要素	・ほとんどの音がとなり音につながっていく	
① 感じたこと	・力強い感じ ・声に迫力がある	・どこかもの悲しい感じ ・感情がこもっている感じ
② 歌詞の内容	・月はいまも変わらないが、人の世は変わってしまう ・昔は栄えていたが、今は荒れ果てて治気がなくなっている	